

視聴覚教育

NO. 243
 発行日 10. 6. 10
 発行 岡崎市AVL
 編集 現職教育委員会
 視聴覚部

視聴覚用語
 「モテム」
 電話回線のアナログ信号とコンピュータのデジタル信号とを互いに交換し、データ通信を行うための機器。コンピュータとアナログ電話回線の間に接続する。通信速度には、28.8kpbs、33.6kpbs、56kpbsなどがあり、数値が大きいほど一度に大量のデータを転送できる。

放送による

DVDシステムの活用

教育委員会指導主事 山田 賛平

岡崎市では、平成六年度から八年度まで国の先導的な通信技術研究に協力する形で、VODの教育利用をはじめとする様々な利用研究を進めて来た。現在、それらの成果と岡崎市全体の情報化計画に基づいて、教育利用の分野における諸事業への取り組みや調査・研究チームをスタートさせている。

そうした中、CATVによる映像教材の放送が六月一日から始まった。岡崎市視聴覚ライブライリーのDVDシステムに収録された映像資料を、西三河ニューテレビ放送(MICS)の番組を通じて学校や地域に提供するものである。

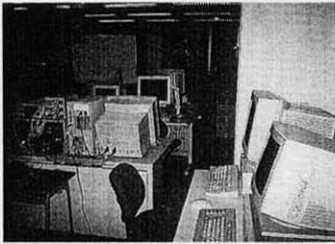
ライブライリーのDVDシステムは、高画質の動画をディスクにデジタル記録するもので、省スペース、長期保存、多角利用を可能にするシステムである。平成九年度末に同システムの整

備が完了し、その運用を本格的に進めている。

この放送には二つの意義がある。一つ目は、ライブライリーで制作・収集して来た映像の利用拡大が図られることである。長年にわたる自作教材制作や記録映像の撮影による蓄積によって素材提供が可能になり、この放送を実現することができた。

二つ目は、「情報ネットワークの多様な形」の一つを具現化したことである。DVDシステムは複数のパソコンを組み合わせた映像提供であり、この放送はテレビ利用をより拡大するため言うことができる。

すべてをパソコンで処理することはまだまだ難しい。それぞれの目的に最もふさわしいメディアがあり、それらをいかに活用するかは、パソコンですべてを解決できる技術と環境が完成するまでは、必要な研究及び推進課題である。



〈DVDシステム〉

Ⅱ 視聴覚教育あれこれⅡ
 平成十年度

情報教育主任会組織

組織
 部長 二村 邦彦 (矢作中校長)
 副部長 杉浦 博司 (上地小校長)
 担当指導主事 山田 賛平 (教育委員会指導課)

情報教育指導員 杉坂 美典 (甲山中)

世話係

研修部

渡辺 政則 (新香山) 鈴木 勝久 (梅園小)

佐野 正季 (南中) 坂田 裕史 (井田小)

山田 義仁 (葵中) 森 竜師 (城北中)

実践部

竹内 昭博 (本宿小) 安部 朋彦 (六中小)

小田 哲也 (藤川小) 鈴木 和一 (小豆坂)

開発部

小川 規博 (矢作中)

広報部

深津 幸弘 (北中) 伊藤 研治 (美川中)

川副 康雄 (竜海中)

各部の主な活動

研修部・パソコンを授業に活用できるように講習会を開催し、パソコンについての知識や基本操作の習得を図る。

実践部・パソコンソフトを授業で用い、効果的な活用方法の研究を行う。パソコンソフトの年間利用計画を作成する。

開発部・授業に使えるパソコンソフトの開発を行い教育用ソフトの拡充を図る。

広報部・情報教育に関する記事を月報に掲載し、研究の成果や今後の方針をまとめ情報教育の広報活動を行う。

授業や集会における

ピクチャールバムの活用

連尺小学校 常磐 圭

本校では、昨年度より総合的学習の取り組みとして、身近な環境に目を向け、「連尺ウォッチング」という活動を全校で行っている。子供たちが自分たちの力で調査したことをまとめ、発表する場を多く設けている。体育館での授業や児童集会では、液晶プロジェクターを使ってビデオ映像や写真、資料などをスクリーンに投影することが多い。その際、最近大活躍をしているのが「ピクチャールバム」である。

昨年度の二月には六年生が「環境サミット」と題して学年集会を行った。校内や地域の二酸化炭素濃度や学区を流れる川の水質を調査している様子をデジタルカメラに納めたものの写真や資料をピクチャールバムに保



存していく。記憶容量が大変大きいMOを使っており、編集も容易に行えるため発表の準備、資料映像の管理にはとても重宝する。集会では、係の子供たちが発表に合わせながら映像をスクリーンに映し出していた。発表内容を効果的に伝えることができた。

また、三月には児童全員が参加する「連尺っ子春みつけ集会」が行われた。ここでは、花などの実物は教材提示装置、乙川に集まった野鳥の紹介にはピクチャールバムに納めた映像を使って子供たちが発表を行った。低学年の子供たちも引き付ける内容の濃い集会を行うことができた。

こうした授業や集会で発表に使う資料映像を保存・管理するのは大変であったが、新たな視聴覚機器の活用によって子供たちも教師も満足できる活動が行えるようになった。

II 研究校紹介 II

(財) 松下視聴覚教育財団

平成十年度

視聴覚教育研究助成校に 竜美丘小学校が決定!

財団法人松下視聴覚教育財団による「第二十回(平成十年度)視聴覚教育研究助成」研究校が、岡崎市立竜美丘小学校に決まりました。今年度一年間、研究助成を受けます。

ライブブライリーだより

☆16ミリ映写機検定のお知らせ

平成十年度の16ミリ映写機の検定を行います。日時は、六月二十五日(木)午前九時三〇分から午後三時まで。場所は例年どおり、岡崎市立図書館の裏駐車場です。映写機をお持ちの学校で、昨年検定を受けられなかった所は受けてください。

☆刊行物案内

『岡崎の視聴覚教育』29号

平成九年度の岡崎市内の小中学校や幼稚園および社会教育における視聴覚教育の実践と、視聴覚ライブライリーの一年間の活動についてまとめたものです。視聴覚教育賞論文文部大臣賞を受賞した新香山中学校の論文をはじめ、他の優秀論文についても掲載されています。今後ますます進展していく高度情報化社会に向けての視聴覚教育の在り方などについて、豊富な記載がされています。

☆「視聴覚教材・機器利用の手引き」第3集

どの学校にもある各種の視聴覚機器について、また本年度で、すべての小中学校にもパソコン教室が設置されたということによって、パソコンについても掲載しました。初心者の方、機器操作の苦手な方でも、これを見ればすぐ操作ができるようにと考えて作りしました。授業の仕方を少し変えてみたいと考えてみる方、本書を参考に視聴覚機器を使ってみてください。きっとお役に立つと思います。